

4. 各業務の流れと操作手順

4. 6 配送／容器管理

- 4. 6. 1 供給マスタメンテナンス
- 4. 6. 2 容器配送伝票印刷の入力
- 4. 6. 3 容器マスタメンテナンス
- 4. 6. 4 容器取付／引取の入力
- 4. 6. 5 容器所在照会の表示
- 4. 6. 6 担当別配送実績表の印刷
- 4. 6. 7 集合住宅配送予測修正
- 4. 6. 8 容器台帳の印刷
- 4. 6. 9 配送伝票印刷データ作成
- 4. 6. 10 配送伝票の印刷
- 4. 6. 11 配送日報の印刷
- 4. 6. 12 容器配送予定表の印刷
- 4. 6. 13 得意先別取付容器明細票の印刷
- 4. 6. 14 軒下在庫一覧表の印刷
- 4. 6. 16 配送予測の再計算
- 4. 6. 17 ハンディ配送伝票入力
- 4. 6. 18 ハンディ入力結果の再印刷
- 4. 6. 21 配送先一覧表の印刷
- 4. 6. 22 設置容器集計表
- 4. 6. 24 配送予測リカバリ
- 4. 6. 25 配送伝票印刷取消
- 4. 6. 27 破棄容器の削除
- 4. 6. 29 供給マスターエラーチェック
- 4. 6. 30 配送予測状況チェック表示
- 4. 6. 31 容器移動履歴の再編成
- 4. 6. XX 容器交換指示の仕組み

4. 6. 1 供給マスターメンテナンス

容器の配送を行う得意先に対して、配送日の予測を行うための基本データを入力します。供給マスターは、得意先マスターの登録を行ったときに、そのデータ領域が確保されます。従って、得意先マスターで、“容器の配送有り”となっていないと、メンテナンスすることはできません。また、ここでデータの入力がされていなくとも、配送伝票の入力、および規定値での配送予測を行うことは可能です。

(a) 画面

(b) 操作手順

① 得意先コードの入力

得意先コードを入力し、[Enter] を押して下さい。

指名、住所及び既存のデータが表示されます。コードが不明のときは、[名前検索] でさがすともできます。[コード順] を押すと、コード順に順次表示することもできます。

② それぞれの項目にデータを入力して下さい。

データは、カーソルの止まる項目だけが修正できます。止まらない項目は、表示だけで、修正はできません。

このプログラムで入力する項目は、配送指示を出すための基本項目です。特に配送予測を行う場合は、正確な内容が要求されます。

例えば、予測の方法を変更したとしても、次回の伝票入力が行われるまで、なにも影響しません。

③ [再予測]

このボタンは、入力中いつでも押せます。

押すと、交換予定日（次に伝票が発行される日付）と限界日が再計算されます。予測交換日は、

は変更しません。

例えば、容器を、20kgから、50kgに変えたとき、計数値を変えたときに、有効です。

(c) 項目の説明

・ 供給形態

【設置条件】

- 1 : シングル（切替無し）
容器が1本または、切り替え装置が付いていないケースです。
- 2 : 手動
複数本の容器が、手動切り替え装置で設置されているケースです。
- 3 : 自動
複数本の容器が、自動切り替え装置で設置されているケースです。
- 4 : バルク [2003.04]
バルク容器による供給のケースです。

【交換条件】

- 1 : 交互
一次側（現在ガスが出ている側）と二次側を交互に切り替えるケースです。
50kg+50kgのようなケースでは、交互に切り替えても同じですが、
50kg+20kgのようなケースでは、現在の一次側が50kgならば、交換すると一次側が20kgになります。
- 2 : 全量
一次側、二次側に設置されている容器を常に全量交換するケースです。
予備容器は、対象になりません。
シングルは常にこのケースです。
- 3 : 一次
通常は一次側だけを交換し、予備容器を設置するケースです。予備容器の指定も必要になります。
バルクの場合には、3を指定します。

・ 予測方法

- 1 : 実績による
何kg使用した時点を予定日とするかという、予測計算を行います。
交互交換の場合は、次回は二次側の設置量で予測します。もし、一次、二次とも50kgで、今回の使用量が、60kgならば、二次側は40kgしかありませんから、次回は40kgで予測することになります。（**食い込みを使用するかどうかは、システム定数の「交換予測方法」で行います。**）
一次側のみでの交換の場合は、常に一次側の設置量になります。
- 2 : サイクル指定による
予測計算を行わず、決めたサイクルで交換することになります。同時に日数を1～99の範囲で指定します。
例えば、今回交換日が、1月20日で、サイクルが15ならば、次回予定日は、2月4日になります。
- 3 : 固定日
予測計算を行わず、毎月決めた日に交換することを示します。同時に日数を、1～99の範囲で指定します。31以上の数字を指定すると、常に月末になります。

[旧システムとの互換性のために、0も1と同じ意味にしています]

・ 設置容器

一次側（現在供給している側）、二次側（次回供給する側）および予備容器の本数を、容器の種類ごとに入力します。
予備容器は、その取り付け日も入力できるようになっています。残量は、予備容器の最近交換したときの残量です。この残量は、容器を全部交換したときに、

もとに戻ります。

予備容器は、例えば、50kg + 20kg で、常に50kg だけ交換するような場合を言います。この場合は、20kg を予備容器として登録します。

バルク容器の場合は、その容量をkg で登録します。

供給形態（設置、交換方法）と矛盾しないように登録して下さい。例えば、二次側を登録しても、交換方法が3（一次）では、無効になります。設置が4（バルク）の場合は、一次、二次は無効です。

- ・ 容器指定 容器の種別を指定します。予測等にはなにも関係ありません。交換伝票には、アルミ指定のときはその旨印刷します。
 - 1：通常の鉄製の容器
 - 2：アルミ製の容器
- ・ 集合検針 配送時に検針を行うかどうかを指定します（別システムで使用）
 - 0：集合住宅では検針せず、個別住宅は通常検針を行う。
（集合の親メータがないとき使用）
 - 1：集合の親メータの検針を行う
（集合の親メータがあるときに使用）
 - 2：集合の場合、各部屋の検針を行う
（各部屋の指針合計を親の指針とする。） [ハンディで使用]
 - 9：検針を行わない
- ・ (ハンディ) (他社製ハンディを使用するときに有効)
 - 0：配送用のハンディでは、指針を入力する。
 - 1：配送用のハンディでは、今回数量を入力する。
- ・ 安全率 取り替え予定量の何%を予測の対象とするかを指定します。例えば、90とした場合、設置量が50kgならば、 $50 \times 90\% = 45\text{kg}$ で予測します。予定量を上回る指定も可能です。例えば、105としたときは、二次側に5%食い込ませる指定になり、52.5が予定量になります。

元になるのは、設置量であり、その残量ではありません。
例えば、設置量が50kgで、現在の残量が20kgの場合、安全率が90%ならば、 $50 \times 0.9 = 45\text{kg}$ を基準に考えますから、5kgを残さねばならず、15kgの消費時を予定日とします。
- ・ 係数番号 予測計算を行う時の係数表番号を指定します。指定のない場合は、その得意先の過去のデータをそのまま係数値として使用します。係数表の作成は、係数表メンテナンスで行って下さい。（未使用）
- ・ 前回交換、今回交換 交換時の、日付、指針、使用量（%）、残量（kg）を表示しています。この内容は変更できますが、日付と指針を変えると次回の交換入力時に「予測計算」に影響します。
- ・ 検針日 今回交換以降に検針が入っているときに表示されます。
- ・ 交換パス日 容器の交換に行ったが、使用量が少なかったために交換を行わないで、指針のみ読んできたときに、その情報を表示します。
- ・ 予測交換日 今回交換時に算出した次回の交換予定日、予測される指針、予測の元になった

予測量 (kg)、交換日から何日後になるかを表示しています。サイクル指定、または配送員が次回の日付を指定したときは、その日数が表示されます。この項目は変更できます。

指針 : 予測交換日時点の指針を予測しています。
 前回指針 + 予測量 × 安全率 × 産気率 で計算

予測量 : 今回の予測の対象になった容器の容量です。
 実際の予測は、これに安全率を掛けます。

日数 : 今回交換日からの日数です。
 1日 (m3) : 予測量を m³ にして、日数で割ったものです。

- ・ 交換予定日 次回予定日算出後に、検針などで予定日が修正 (再計算) されたときに、その内容が表示されます。始めは、予測交換日と同じです。
容器交換伝票は、この日付で印刷されます。
 この項目は変更できます。
- ・ 限界日 この日までに容器交換を行わないと、全部のガスを使い切ってしまうという日限です。
- ・ 発行時予定 伝票を発行したときの、「交換予定日」を表示します。
 伝票発行後に、「交換予定日」が変更された場合に、以前の内容がわかるようにしています。
- ・ 伝票発行 0 = 伝票はまだ発行されていません。
 1 = 伝票は、発行済みです。0 にするともう一度発行することができます。
 発行された日付も表示しています。
- ・ 発行抑制 0 = 自動検針の得意先に対して、伝票の発行可能。これは、警報が入り、伝票の発行をしてもよい状態になったことを示します。
 1 = 自動検針の得意先に対して、伝票の発行は不可であることを示す。交換伝票入力した時点では、1 になります。警報が入ると 0 になり伝票の発行が可能になります。ここが 1 であると、交換予定日になっても、伝票の発行は行われません。
この機能は、システム定数の「配送伝票制御」で無効にすることが可能です。
- ・ 曜日指定 **この機能はオプションです。**
 曜日の指定があると、予測する日付を、その曜日に強制的に合わせるすることができます。
- ・ 設置残量 一次側、二次側を合計した現在の残量が表示されます。
- ・ 使用量 当年、前年、前々年の各月の検針量が表示されています。30日当りに換算したものです。
 この数値は変更できません。
- ・ 係数 実績予測のときに予測計算のもとになる数値です。検針が入るたびに実績とともに、更新されます。(更新処理は、月末締め処理時に行われます)
 数値の変更は可能です。
新規の得意先で、最初から実績予測を行いたい場合は、係数を登録する必要があります。使用器具などから、消費量を予測して下さい。1項目だけでも登録されていれば、その平均をとって予測します。

4. 6. 2 容器配送伝票入力

配送伝票を元に、今回の配送データを入力します。

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 担当コード、配送日の入力
存在しない担当コード、日付の誤りはエラーとなり、先へ進めません。正しく入力して下さい。
- ② 得意先コードの入力
配送伝票を見て、そこに印字されている得意先コードを入力して下さい。コードがわからないときは、「名前検索」も可能です。検針順に入力することを考慮して、**PF3** を押して、検針順に順次呼び出すこともできます。
- ③ 今回の指針入力
伝票に記入されている指針を入力します。集合住宅などで、メーターのついていない場合は、入力する必要はありません。
差引使用量、交換日数、1日当たりの使用量、引き取り容器の残量、一次側/予備側容器の残量 (Kg) が表示されます。

予定/残量	50	4
-------	----	---

引き取り容器の残ガス量。予定量から使用量をマイナスして表示。
交換予定量。(サイクル指定のときは、日数)

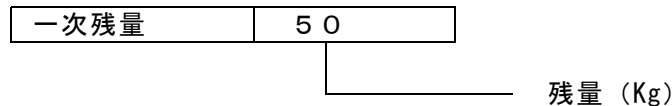
一次残量は、交互交換の場合だけ計算されます。例えば、50kg+50kgで、60kg使用したとき、二次側の残量は40kgになるわけですが、これが次回は一次となるわけであり、表示も一次としています。また、交換しないで、指針だけ見たときは、一次側だけが減るわけであり、そ

のまま表示されます。

予備残量は、予備容器の設置があり、一次側の使用量が予定量を超えたときに計算されます。

例えば、50kg+50kgの交互交換のときに、今回使用量が、60kgであれば、残量は40kgになります。このとき、次回の予定量は40kgになりますが、次回が、40kg以下の使用量ならば、また50kgに戻ります。残量が、30%以下になったときには、交換伝票に「全量交換」の指示が印刷されます。

また、予備容器の設置の場合は、例えば、50kg+20kgのときに、今回使用量が、60kgならば、予備は10kgになります。全量交換を行うまでこの残量は、減り続けます。残量が、30%以下になったときには、交換伝票に「全量交換」の指示が印刷されます。



◆内容を直接変更したいときは、「供給マスターメンテナンス」で実行します。

④ 交換の有無の入力

通常の交換の場合は、[0]を入力します。

実際の容器の交換を行わなかった場合には、ここに[1]を入力します。容器の交換をしなかったときは、予定量から今回の使用量を差し引いた残りで、次回の日付を予測します。

(例)	予定量	50kg	
	今回使用量	30kg	(%×産気率)
	予測量	20kg	

└──────────┘ 予測に使用する「予定量」

全容器の交換を行ったときは、ここに[2]を入力します。予備側容器の残量が100%に戻ります。

⑤ 安全率、月平均、係数、の変更

カーソルは、[次回予定]の欄にあります。安全率、月平均、係数は、通常は変更する項目ではないので、ここには止まらないようになっています。(項目の変更は「供給マスターメンテナンス」でおこなってください。)

⑥ 次回予定の入力

次回予定は、例えば、

1	50
---	----

とすると、50kgを消費する時点を予測します。

2	20
---	----

とすると、次回は20日後となり、単純に日数を加えて予定日とします。

画面には、前回の指定内容が表示されていますから、変更があるときだけ入力します。容器の交換を行わなかったときは、変更してはいけません。

⑦ 次回予定日

計算された次回予定日が表示されます。この日付は、変更することができます。計算の根拠は、画面の下の方に表示されます。[今回増減]には、どれだけの割合で増加したのかが示されています。100.0のときは、増減なしで、それ以上の場合は、増加したことを示します。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
16.2	15.0	10.9	8.7	7.3	7.0	6.5	7.0	10.2	11.7	14.3	17.0
6.5											15.1

この例は、12月中に、15.1%、1月11までに6.5%使用することを示しています。

◆プログラムが計算した予定日を、手操作で変更したときは、以降に検針デ

——タが入っても予測の修正は行われません。——

◆交換予定日の計算方法は、別冊の「配送予測の仕組み」に記述されています。

⑧ 引き取り／取付容器

現在設置されている容器の番号が表示されます。今回引き取った容器に対して、右枠に [1] を入力します。12本以上の容器があるときは、続けて12本分の容器が表示され、合計で、240本までの容器が表示されます。引き取りのチェックが終わると、取付容器に移ります。一度に12本の容器が入力できます。もし、12本目に容器番号の入力を行うと、続けて、12本の入力ができ、最高240本までの入力ができます。このとき、右枠内にはなにも入れないで下さい。

引取容器	1	2	3	4
B013		B062		
201006	7	201027	8	9
				10

取付容器の入力では、容器マスタに未登録の容器を入力したときに、次のようにメッセージが表示されます。「YES」とした場合には、再入力して下さい。「NO」とすると、容器マスタに自動登録されます。（容量などは、容器マスタメンテナンスで更新します）

X0360	7	8	9	10	11	12	容器本数						
							50 0 0						
							30 0 0						
							20 1 1						
							10 0 0						
							予備容器						
係数	14.5	14.4	15.5	14.5	14.2	13.4	11.0	9.6	9.9	8.6	11.5	12.2	
修正係数	17.4	17.3	18.4	17.4	14.2	13.4	11.0	9.6	9.9	8.6	14.7	15.1	
予測量	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.0	
保安点検	0 (不良箇所の項目だけその番号を入力します)												
MS0401 容器マスタに未登録の容器です。訂正しますか											YES (F9)	NO (F11)	

⑨ 保安点検結果の入力

配送時点検（システム定数で決めます）の場合は、カーソルが止まります。不良項目があれば、その番号（1～13）を入力します。何個でも入力できます。[0]を入力すると、確認欄に進みます。

- 01 火気との距離
- 02 腐蝕防止
- 03 転倒防止
- 04 昇温防止
- 05 腐蝕・割れ
- 06 LPガス適合
- 07 危険標識
- 08 供給配管
- 09 ゴム管
- 10 高圧ホース
- 11 低圧ホース
- 12 屋外ホースバ

- ⑩ 確認
データの更新をするかどうか聞かれます。

YES=F9, NO=F11

- F9 : データの更新が行われます。
F11 : データの更新を行わず、得意先コードの入力に戻ります。
F1 : 直前の入力項目に戻り、修正が行えます。

4. 6. 3 容器マスタメンテナンス

容器について次の処理を行います。

- 登録 : 容器マスターメンテナンスで行います
新規容器の登録、バーコードラベルを貼ったときの登録
- 充填期限の更新 : 容器マスターメンテナンスで行います。
耐圧検査から戻った容器の更新。
- 廃棄 : 容器マスターメンテナンスで行います。
- 移動状況 : 配送伝票の入力で更新されます。
容器台帳で見ることができます。

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 初めに、[登録] [更新] [削除] [参照] の機能を選択して下さい。
- ② 整理番号は、10桁まで入ります。英数字のみの組み合わせで、右の余白は、スペースにします。バーコードを使用しているときは、その番号を入力します。

詳細は、「マスタ記入要領」を参照して下さい。

- ③ 更新の場合は、現在の番号を新番号に変更することができます。
[新番号] 欄に、新しい番号を入力して下さい。
更新すると、旧容器は、「削除状態」になります。
- ④ 「充填用に変換」は、一部の充填管理システムと連動するために、データ変換を行うものです。通常は使用しません。

4. 6. 4 容器の取付/引き取り

通常、容器の引き取り/取付は、「配送伝票の入力」で行いますが、配送予測を伴わない場合は、容器番号だけの入力で、スピーディに行くことが可能です。

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 担当コード、配送日の入力
存在しない担当者のコード、日付の誤りはエラーとなり、先へ進めません。正しく入力してください。
- ② 得意先コードの入力
得意先コードがわからないときは、名前で、得意先をさがすことができます。
- ③ 引取容器
現在設置されている容器の番号が表示されます。今回引き取った容器に対して、右枠に「1」を入力します。12本以上の容器があるときは、続けて12本分の容器が表示され、合計で、240本までの容器が表示されます。引き取りのチェックが終わると、取付容器に移ります。
- ④ 取付容器
一度に12本の容器が入力できます。もし、12本目に容器番号の入力を行うと、続けて、12本の入力ができ、最高240本までの入力ができます。このとき、右枠内にはなにも入れないで下さい。

容器の [区分] に「5」を入力すると、重量売りとして取り付けた（引き渡した）容器で有り、配送伝票には印字しません。

⑩ 確認

データの更新をするかどうか聞かれます。

確認	YES=F9, NO=F11
----	----------------

- F9 : データの更新が行われます。
- F11 : データの更新を行わず、得意先コードの入力に戻ります。
- F1 : 直前の入力項目に戻り、修正が行えます。

4. 6. 5 容器所在照会

容器が今どこに設置されているかを表示します。

(a) 画面

上書 20-11-10 谷口 容器所在照会 HRSRYOKI V150610 終了

[参照]

整理番号	容器記号	容器番号	製造年月	検査年月	充填期限	購入年月
A030	GON	72470	1510	1510	2009	1510
容量	風袋重量	所有区分	ガス種類			
50	.0	0	01			
容器種類	風袋種類	所有者	置き場			
1 普通	0 鉄	使用者				
仕入先	仕入日	状態				
		1 廃棄済み				
旧番号						

	取付	引取	コード	名前
最新	20. 4. 9		0000542	○○ ○○
前回	20. 3. 11	20. 4. 7	0030140	○○○○○○○○○○○○
前々回	20. 2. 28	20. 3. 10	0710002	○○○○○ ○○○○○

YES (F9) NO (F11)

(b) 操作手順

- ① 入力するのは、「容器の整理番号」のみです。

容器の登録内容と、過去3回の設置状況が表示されます。

確認 YES=F9, NO=F11

4. 6. 6 担当別配送実績表の印刷

担当者の配送実績を、日付と容器の種類ごとに集計して印刷します。

(a) 画面



担当別配送実績表

上書 20-11-10 谷口 担当別配送実績表 L56 HSLTANTO V190301 終了

日付範囲 200801 から 200831 までの分 (配送年月日)

担当者 [] から [] までの分

分類 0 (0. 分類なし 1. 事業所別)

事業所別にした場合、得意先コードの先頭2文字が変わったところで、小計及び改ページします。

印刷する

(b) 操作手順

- ① 日付の範囲を指定します。通常は、月の初めから、当日までの日付が表示されるので、そのまま実行しても良いです。
- ② 担当者の範囲を指定すると該当の担当者だけを抽出します。
- ③ 分類
 0. すべての事業所をまとめて印刷します。
担当者が複数の事業所で実施してもひとくくりとなります。
 1. 事業所ごとに分けて印刷します。

4.6.7 集合住宅の配送予測

集合住宅も、一般の住宅と同じように、月当たりの使用量が入っていれば、配送予測を行うことができます。通常、メーターは設置されていませんから、指針の入力はしませんが、月末締め処理時点で、各部屋の当月の検針値を合計して、親のコードに集めます。それを計数值として、今回の検針値をもとに、予測計算を修正することができます。

つまり、配送伝票の入力時には、前年度のデータをもとに予測計算し、検針データが入ったときに、予測の修正を行うわけです。（配送伝票の入力は、「配送伝票の入力」を参照して下さい）

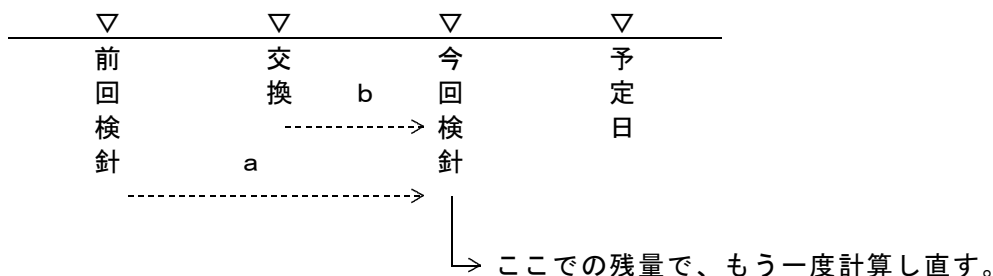
得意先コード										
X	X	1	2	3	4	5	← 検針伝票の入力のみ			
X	X	1	2	3	4	5		0	0	1
X	X	1	2	3	4	5		0	0	2
X	X	1	2	3	4	5		0	0	3
X	X	1	2	3	4	5		0	0	4
X	X	1	2	3	4	5		0	0	5
X	X	1	2	3	4	5		0	0	6

← 配送伝票の入力のみ

上記のように、得意先コードの前7文字が同一になるように、得意先マスターを作成しておきます。コードの枝番がスペースのマスターは、配送の親コードで、検針はありません。

<計算の方法>

aの間の各戸の使用量を合計し、1日当たりを算出する。bの間の日数を掛ければ、どれくらい使ったかわかるので、検針時の残量が計算できる。これを元にもう一度配送予測計算を行い、予定日を修正する。これは、検針が入力される都度実行しなければならないが、同一の集合住宅で1月内に何回も実行してはいけない。すなわち、1つの集合住宅内で、検針を別々に行うのは好ましくない。



(a) 画面

システム定数	
予測方法	0 通常の予測修正を行う。
CD桁数	1 配送コードは 7桁
親指針	1 親指針を自動計算して更新する
集合CD	0 コードの連番で親子連携

(b) 操作手順

- ① 範囲、印刷条件を指定します。
 検針日を指定したときは、その間に検針したすべての得意先を集合住宅ごとに集めて、予測修正を行い、親コードを変更します。（集合住宅でないコードは除外されます。）
 得意先コードを指定したときは、範囲内の集合住宅に属する得意先の検針データを集めて予測の修正を行います。

どちらの場合も、容器の交換日以降に検針が行われているものを対象とします。

予定日の修正が行われた分だけを取り出したいときは、条件を1にします。

- ② 分類後印刷を開始します。

(c) 係数表の更新

(05.01.07より)

- ① 子コードの検針数量を集計したときに、供給マスタの「係数表」も更新します。これにより、当月に検針が行われている場合に、係数が最新になり、予測の精度がより高まります。
 なお、係数値の変動も、2ヶ月先まで考慮し、修正します。例えば、今月の係数が、前年同月と比較して、1.2倍であったとするならば、来月、再来月を1.2倍します。
 （同様の処理は、「月末締め処理」中にも行われます）

- (d) 例えば、8戸の住宅がある集合の場合、1件の検針を行った時点で、予測修正を行おうとすると無理があります。そこで、「集合戸数」が登録されている場合には、その半数を検針したときに予測修正する機能が追加されています。（2007年）
 集合戸数は、保安マスタで登録します。

(e) 親指針の管理

(2007年3月)

通常、親コードには指針を入力しません。

そこで、子コードの検針数量を合計して、前回指針に加算していく方法があります。

検針日	数量	指針	
07.01.10	45.6	123.4	
07.02.07	40.1	163.5	(1月の指針に、40.1を加算)
07.03.08	38.9	202.4	(同様)

配送時には、この指針を元に、指針を算出します。例えば、2月20日に配送したとして、2月の係数が、42.9 である場合、次のように配送時指針を計算します。

07.02.07		163.5	
	13日なので、	$42.9 / 30 \times 13 = 18.5$	
07.02.20		182.0	(163.5+18.5)

この機能を、使用するには、「システム定数」でその旨（配送親指針管理）指定する必要があります。

(f) 親コードの管理

(2007年3月)

通常、親コードと子コードは、10桁のコードのうち、前7桁が同じで、最初が親コードでなければなりません。

システム定数で、「親コードキー使用」を指定することにより、親子のコードは並んでいる必要はなくなります。この場合は、子コードの得意先マスタに、親コードを記録して連携します。

(g) 印刷例

[HSLSYUGO]

集合住宅配送予定日修正結果

14年 9月30日

1 頁

得意先コード	配送先名 住 所	地図コード	今回配送日	修正前予定日 修正後予定日	設置量 予測量	本数 安全率	検針件数 係数	経過日数 1日当り (m3)	数量(m3) 数量(Kg)	予測 残量(Kg)
0000015	○○ ○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○		14. 4. 11	14. 6. 15 14. 9. 30	40.0 20.0	2	2	2 0.15	0.3 0.6	実績 19.3 ●●
0000090	○○○ ○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○		14. 4. 11	14. 5. 24 14. 9. 30	100.0 50.0	2	2	2 0.55	1.1 2.3	実績 47.6 ●●
0005850	○○○○ ○○○○○○○○○○		13. 7. 22	14. 8. 12 14. 9. 30	100.0 50.0	2	1	263 0.18	48.6 103.4	実績 -53.4 ●●

※ 件 数 ※ 3 件

4. 6. 8 容器台帳の印刷

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 容量、または容器の整理番号で、印刷範囲を指定します。

印刷は、容量別、整理番号順に行われます。

条件で、1としたときは、範囲内を無条件に出力します。

2（期限切れ）を指定したときは、期限年月を指定すると、その期限までに、検査の満了（充填期限）する容器を出力します。

3（停滞容器）としたときは、指定した日数以上客先に停滞している容器を出力し、不明容器の発見に役立ちます。

4（停滞容器）としたときは、客先から引き上げてから指定日数以上、充填所あるいは倉庫などに停滞しているものを出力します。

5は容器が該当した数字よりも前のリストを出力します。

6は、「廃棄状態」の容器を出力します。

明細行数 最大5行で行数が選択出来ます

印刷する 印刷しないにすると C:\¥LPG¥HSLYOKIM.TXT にテキストファイルとして出力することが出来ます。

(c) 印刷例

[HSLYOKIM] 容量: 20 KG 容 器 台 帳 中 長 範 圍 020 → 020 [条件なし] 14年 9月30日 1 頁

容器番号	刻印番号	容量	風袋	前回 検査	期限	製造 年月	区分	コード	現 得意先	所 在	取付日	コード	前 得意先	取付日	引取日
B104	KBR 87104	20.0		1304	1503	8904	自社	0005120	〇〇	〇〇〇〇	140412	0000341	〇〇	〇〇	131115 140411
B105	KBR 87105	20.0		1111	1310	8904	自社	0030260	〇〇	〇〇〇〇〇〇	131107	0006637	〇〇	〇〇	130309 131024
B106	KBR 87106	20.0		1202	1401	8904	自社	0006620	〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	131123	0004742	〇〇	〇〇	130606 131122
B110	KBR 87110	20.0		1205	1404	8904	自社	0030196	〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	140311	0006211	〇〇	〇〇	131205 140226
B111	KBR 87111	20.0		1305	1504	8904	自社	0002460	〇〇	〇〇	140212	0000670	〇〇	〇〇	130522 140210
B112	KBR 87112	20.0		1304	1503	8904	自社	0000741	〇〇	〇〇	131024	0004743	〇〇	〇〇	130622 131023
B115	KBR 87115	20.0		1111	1310	8904	自社		〇〇	〇〇		0002590	〇〇	〇〇	131028 140212
B116	KBR 87116	20.0		1105	1304	8904	自社		〇〇	〇〇		0001300	〇〇	〇〇	130206 140314
B123	KBR 87123	20.0		1111	1310	8904	自社		〇〇	〇〇		0002780	〇〇	〇〇	130717 131216
B124	KBR 87124	20.0		0911	1110	8904	自社		〇〇	〇〇		0000691	〇〇	〇〇	110509 131116
B133	KBR 87133	20.0		1111	1310	8904	自社		〇〇	〇〇		0002521	〇〇	〇〇	121217 131121
B137	KBR 87137	20.0		0911	1110	8904	自社		〇〇	〇〇		0002731	〇〇	〇〇	111017 131102
B139	KBR 87139	20.0		1207	1406	8904	自社	0003681	〇〇	〇〇	131218	0005780	〇〇	〇〇	130620 131205
B171	KBS 08421	20.0		1112	1311	8906	自社		〇〇	〇〇		0004110	〇〇	〇〇	131022 131218
B172	KBS 08422	20.0		1202	1401	8906	自社	0005780	〇〇	〇〇	131205	0005080	〇〇	〇〇	130622 131202
B174	KBS 08424	20.0		1211	1410	8906	自社	0030750	〇〇	〇	131203	0004071	〇〇	〇〇	130503 131202
B179	KBS 08429	20.0		1202	1401	8906	自社	0000690	〇〇	〇〇	140210	0030260	〇〇	〇〇	130924 140128
B181	KBS 08431	20.0		1301	1412	8906	自社	0004741	〇〇	〇〇	140410	0000501	〇〇	〇〇	131115 140403
B182	KBS 08432	20.0		1112	1311	8906	自社		〇〇	〇〇		0002534	〇〇	〇〇	131113 140212
B183	KBS 08433	20.0		1203	1402	8906	自社	0000570	〇〇	〇〇	140118	0004550	〇〇	〇〇	131123 131227
B186	KBS 08436	20.0		1208	1407	8906	自社	0005380	〇〇	〇〇	140403	0006651	〇〇	〇〇	130920 140320
B187	KBS 08437	20.0		1205	1404	8906	自社	0000610	〇〇	〇〇	131012	0000530	〇〇	〇	130510 131011
B188	KBS 08438	20.0		1203	1402	8906	自社	0000731	〇〇	〇	140206	0030250	〇〇	〇〇	140107 140204
B189	KBS 08439	20.0		1212	1411	8906	自社	0006040	〇〇	〇〇	140221	0002460	〇〇	〇〇	131216 140212
B192	KBS 08442	20.0		1112	1311	8906	自社		〇〇	〇〇		0001551	〇〇	〇〇	130405 140314
B193	KBS 08443	20.0		1112	1311	8906	自社		〇〇	〇〇		0000270	〇〇	〇〇	131011 131211
B194	KBS 08444	20.0		1112	1311	8906	自社	0004390	〇〇	〇〇	130918	0003730	〇〇	〇〇	130227 130917
B197	KBS 08447	20.0		1210	1409	8906	自社	0006553	〇〇	〇〇	130722	0004604	〇〇	〇〇	130622 130720
B199	KBS 08449	20.0		0906	1105	8906	自社	0005261	〇〇	〇〇	110215	0001570	〇〇	〇〇	100119 110214
B200	KBS 08450	20.0		1111	1310	8906	自社	0003730	〇〇	〇〇	130621	0006620	〇〇	〇〇	121204 130620
B202	KBS 28582	20.0		1111	1310	8908	自社		〇〇	〇〇		0000511	〇〇	〇〇	130808 131115
B203	KBS 28583	20.0		1205	1404	8908	自社	0004221	〇〇	〇〇	131218	0000811	〇〇	〇〇	131012 131212
B204	KBS 28584	20.0		1203	1402	8908	自社	0004920	〇〇	〇〇	140226	0004430	〇〇	〇〇	140204 140225
B205	KBS 28585	20.0		1205	1404	8908	自社	0001680	〇〇	〇〇	140326	0004550	〇〇	〇〇	140219 140319
B207	KBS 28587	20.0		1111	1310	8908	自社		〇〇	〇〇		0002711	〇〇	〇〇	131017 131218
B208	KBS 28588	20.0		1208	1407	8908	自社	0004331	〇〇	〇〇	140226	0004604	〇〇	〇〇	140212 140225
B210	KBS 28590	20.0		1202	1401	8908	自社	0001180	〇〇	〇〇	130914	0002660	〇〇	〇〇	130214 130912
B211	KBS 28591	20.0		1112	1311	8908	自社	0002534	〇〇	〇〇	131113	0000681	〇〇	〇〇	130809 131112
B212	KBS 28592	20.0		0912	1111	8908	自社		〇〇	〇〇		0004460	〇〇	〇	111017 131126

4. 6. 9 配送伝票印刷データ作成

容器の交換伝票の印刷と、記入後の伝票の入力方法について説明しています。交換伝票を使用しないで、例えば既存の配送カードなどでも入力できるよう、得意先名で検索して入力することもできます。また、自動検針システムと連動させて、伝票の出力時期をコントロールし、最適な軒下在庫で交換することができます。（自動検針システムとの連携についての詳細説明は、別冊を参照下さい。）

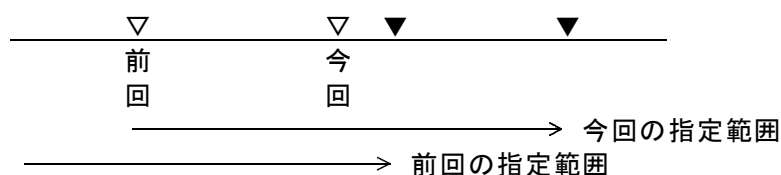
(a) 画面

(b) 操作手順

① 印刷範囲の指定

予定日、得意先コード、配送担当コード、配送地区コードのすべての組み合わせが可能です。「重複発行」の指定をしない限り、同じ範囲指定で、2回出力することは出来ません。

- ・ 日付の指定 交換の予定日で指定します。印刷済みで、まだ入力されていないものは、印刷されませんから、開始の日付は、前回印刷した日を指定するとよいでしょう。以前に出力した日が不明、あるいは伝票が出力されたどうか不明なときは、開始の日付を入れなくて、出力します。



このように指定すると、前回から今回までの間に、予定日が変更されて、前回の範囲の中に、出力すべき得意先が入ってしまったとしても、もれなく印

刷できます。

- ・ 得意先の指定 特定の得意先をもう一度出力したいときに使用します。予定日を入れなくて、得意先コードだけで出力することができます。予定日を省略して、得意先コードだけ指定したときは、予定日に関係なく出力されます。
- ・ 担当の指定 得意先マスターに指定の、配送担当者のコードで出力したいときに使用します。
- ・ 地区の指定 得意先マスターに指定の、地区コードで出力したいときに使用します。毎月交換日の決まっているような、特定のブロックに対して使用するとよいでしょう。同時に4地区まで指定することができます。

③ 伝票の重複発行

一度印刷されている伝票は、交換の入力が行われないと、再度発行することはできませんが、紛失、用紙切れなどでもう一度出力したいときに、重複発行として出力することができます。

④ 確認

データのチェックが行われ、印刷予定件数が画面に表示されます。

件数	0 / 156
----	---------

- ⑤ 印刷データを作成してよければ、yes として下さい。作成中は、画面に現在の件数が表示されます。

(c) バーコードの印刷

配送伝票に得意先コードをバーコードで印刷することができます。このときは、「システム定数メンテナンス」で、バーコード印刷を行う指定をしなければなりません。伝票印刷できる桁数は、数字のみで7桁までです。従って得意先コードを、7桁で使用しているのか10桁なのか、識別しなければなりません。

	【伝票】	【配送】	【内部処理】
①	7桁のバーコード	→ ハンディ	→ 7桁+3桁スペース
②	7桁のバーコード	→ ハンディ	→ 7桁+3桁ゼロ

どちらを使用するかを「システム定数」で指定します。通常は、①を使用します。

得意先宅にバーコード・ラベルが貼ってある場合にも上記の規則に従います。

4. 6. 10 配送伝票の印刷

「配送伝票印刷データの作成」で中間ファイルに作成した印刷用のデータをプリンタに出力します。

プリンタへセットする用紙は、

- ・ドットプリンタ用の複写専用紙
- ・レーザプリンタ用のA4専用カット紙（複写無し、ミシン有り）
- ・レーザプリンタ用のA4汎用カット紙（複写無し、ミシン不明）

などがあります。

以下の記載は、ドットプリンタ用のものです。

配送伝票をプリンタにセットして下さい。

印刷プログラムを起動すると、

試し印刷を行いますか？

と、聞かれます。これは用紙位置の確認のために表示しており、位置が確定するまで、yesを続けて下さい。

位置が確定したら、NOとします。

印刷開始得意先を指定すると、指定の得意先から印刷を開始します。用紙切れなどで、途中から印刷したいときは、得意先コードを指定して下さい。通常は、何も指定せずに印刷します。

4. 6. 11 配送日報の印刷

配送入力した結果を明細リストで印刷します。手入力、ハンディ入力どちらで入力しても処理対象になります。

(a) 画面

容器配送日報印刷

上書 20-11-11 容器配送日報印刷 L56 HSLHAINP V190301 終了

営業所コード

配送センターCD (省略可能)

配送センター名

配送担当コード (省略可能)

担当者名

範囲 から まで

分類方法 1. 交換日順
2. 得意先コード順

印刷する

最新の交換データが対象になります。

(b) 操作手順

- ① 営業所コードを指定
省略すると、全部の営業所を対象にします。
 - ② 配送センターCD
省略すると、配送センターコードに関係なく抽出します。
 - ③ 配送担当コード
省略すると、担当者に関係なく抽出します。
 - ④ 範囲は、配送日で指定します。省略はできません。
- <注意> 最新の配送データで抽出するので、日付の範囲を大きくしても、過去の配送データを抽出することはできません。

4. 6. 12 容器配送予定表

交換予定を一覧表で印刷します。予定だけでなく、取り出し範囲を過去で指定すれば、配送もれチェックにも役立ちます。

(a) 画面

上書 20-11-11 容器 配 送 予 定 表 L56 HSLYOTEI V190301 終了

得意先範囲 [] から [] まで
 配送担当者 [] から [] まで
 配送センタ []
 地区範囲 [] から [] まで
 日付範囲 1 1. 配送予定日
 2. 予定日の修正が行われた日
 3. 配送日 (交換しなくても伝票入力すれば該当)
 4. 次回予定日の入力されていないもの (日付不要)
 5. 伝票の発行日
 201111 --> 201111 (年月日)

分類方法 1 1. 得意先コード順 4. 担当別得意先コード順
 2. 予定日順 5. 担当別予定日順
 3. 検針順 6. 担当別検針順

条件 1 1. 範囲内全部 4. 警報で修正 7. 月次更新で修正
 2. 予定日の修正分 5. OP指示
 3. 検針で修正 6. 配送員指示

条件 2 1. 範囲内全部 2. 伝票未発行分 3. 伝票発行済み分
 条件 3 1. 範囲内全部 2. 集合のみ 3. 戸建てのみ 4. 受託のみ
 条件 4 0 0. なし

1. 前回より今回の方が、日数差が小さい [] 0 日以上
 2. 前回より今回の方が、日数差が大きい [] 0 日以上

印刷する
 データチェック指定 伝票発行日が交換日より前

(b) 操作手順

- ① 範囲を日付で指定します。
 予定日は、次回の交換予定日であり、「予測計算」で算出されたものです。検針などで修正が入ったときは、新しく算出された日付になります。
 修正の行われた日は、検針データを入力したコンピュータ上の日付を指定します。
- ② 分類方法を選択します。
 担当者は、配送の担当者コードです。
- ③ 条件を指定します。
 予定日の修正分は、もともとの予定日と、修正された予定日が異なる得意先を印刷します。
 伝票発行済みの分は、指定の日付範囲内で、既に伝票が発行されているものをリストします。
 伝票が紛失したかどうかをチェックするのに役立ちます。
- ④ 分類後印刷を開始します。

(c) 印刷例

[HSLYOTEI]		容器配送予定表		範囲 14.03.20 → 14.03.30		14年 9月30日		1 頁		
得意先コード 監視	配送先名	住所	電話 地 区	次回予定日 日数	前回配送日 日数	前回指針 予測指針	前回使用量 設置機	設置kg本数 限界日	予測量	予測方法
0001680	○○○○○○○○	○○○○○○○○	1234-53-2328	14. 3. 27	14. 3. 26	821.5	23.1 kg	40 2	1	日数0326
0002050	○○○○ ○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-52-1166	14. 3. 30 * 41	14. 2. 17 54	821.9 483.1	40 23.8 kg	14. 3. 27 40 2	16	実績0218
0002220	○○ ○○	○○○○○○○○○○○○	1234-53-2321	14. 3. 30 * 227	13. 8. 15 205	490.7 441.8	36 42.5 kg	14. 5. 18 100 2	50	実績0314
0002390	○○ ○○	○○○○○○○○○○○○	1234-53-2049	14. 3. 23 * 129	13. 11. 14 14	256.5 265.9	kg	40 2 14. 8. 4	20	実績0212
0002705	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-52-1624	14. 3. 21 * 120	13. 11. 21 68	573.8 597.3	21.4 kg	100 2 14. 6. 17	50	実績0315
0003490	○○ ○○	○○○○○○○○○○○○	1234-55-2269	14. 3. 20 * 154	13. 10. 17 164	267.9 291.4	46.5 kg	100 2 14. 8. 20	50	実績0215
0005702	○○○ ○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-54-2438	14. 3. 28 9	14. 3. 19 93	177.1 185.1	82.9 kg	100 2 14. 4. 25	17	実績0328
0010610	○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○	1234-55-4601	14. 3. 20 1	14. 3. 19 19	2442.7 2443.1	82.9 kg	200 4 14. 3. 20	1	日数0319
0010831	○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-43-2294	14. 3. 26 1	14. 3. 25 29	5010.4 5010.8	245.3 kg	500 10 14. 3. 26	1	日数0325
0020707	○○○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-47-2824	14. 3. 28	14. 3. 28		kg	00.		実績0328
0030120	○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-55-4332	14. 3. 26 1	14. 3. 25 21	7291.0 7291.4	97.0 kg	200 4 14. 3. 26	1	日数0325
0030192	○○○○ ○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-55-1414	14. 3. 27 1	14. 3. 26 30	3974.0 3974.4	92.1 kg	200 4 14. 3. 27	1	日数0326
0030230	○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-52-1228	14. 3. 27 1	14. 3. 26 22	4304.3 4304.7	119.7 kg	200 4 14. 3. 27	1	日数0326
0030262	○○○ ○○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-55-2816	14. 3. 27 1	14. 3. 26 15	3849.0 3849.4	42.5 kg	100 2 14. 3. 27	1	日数0326
0030310	○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-54-3215	14. 3. 27 1	14. 3. 26 91	3312.1 3312.5	90.8 kg	100 2 14. 3. 27	1	日数0326
0030360	○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-55-5219	14. 3. 26 1	14. 3. 25 19	910.8 911.2	177.4 kg	300 6 14. 3. 26	1	日数0325
0030460	○○○	○○○○○○○○○○○○	1234-53-2915	14. 3. 27 1	14. 3. 26 29	1391.0 1391.4	55.1 kg	100 2 14. 3. 27	1	日数0326
0030500	○ ○	○○○○○○○○○○○○	1234-53-2220	14. 3. 27 1	14. 3. 26 57	1451.6 1452.0	75.9 kg	200 4 14. 3. 27	1	日数0326
0030781	○○ ○○	○○○○○○○○○○○○	1234-85-2696	14. 3. 29 1	14. 3. 28 29	881.5 881.9	112.1 kg	200 4 14. 3. 29	1	日数0328
0030810	○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	1234-54-2111	14. 3. 27 1	14. 3. 26 22	.4	950 kg	14. 3. 27	1	日数0326

4. 6. 13 得意先別取付容器明細票の印刷

得意先に設置されている容器を一覧します。

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 取出範囲を、得意先コードまたは、配送担当者のコードで指定します。省略する場合は、「1」だけ入力して下さい。
- ② 日付範囲を、配送した日付で指定します。
- ③ 印刷順序を指定します。省略は不可です。
- ④ 条件 1
 1. 得意先ごとに明細を印字
 2. 事業所ごとの合計だけ印字
- ⑤ 条件 2
 1. 設置容器のない得意先は印字しない
 2. 設置容器が無くとも得意先を印字する
- ⑥ 条件 3
 1. 重量売りの得意先は対象にしない
 2. 重量売りの得意先も含めて印字する
- ⑦ 条件 4
 1. 設置容器数が食い違っているものを印字

4. 6. 14 軒下在庫管理

容器の交換日から現在までの、ガスの消費量を予測し、現在庫を算出します。画面に表示することと、印刷を行うことが選択できます。配送予測と同様に予測しますので、正確な現在庫とはいえませんが、目安として使用できます。

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 機能、範囲、分類方法を指定します。
分類方法は、印刷に対してのみ有効です。画面に表示するときは、通常1件のみ表示します。
- ② 印刷と表示を指定したときは、画面に1件ずつ表示するとともに明細を印刷します。

(c) 計算方法

例えば、次のような場合で説明します。

交換日	93年09月20日												
現在の日付	93年11月02日												
経過日数	43日												
平均使用量	10.3%												
合計設置量	100 kg												
年間使用量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
	15.0	12.3	10.0	9.8	8.0	8.6	6.4	5.8	9.3	11.5	12.6	14.3	%

(年間使用量は、検針時に30日あたりに換算した使用量で記録されています)
9月20日から11月2日までの43日間にどれだけ消費したかを算出し、設置量から差し引くことにより、在庫数を求めます。各月の使用量は、年間(前年実績)の使用量にもとづいています。

〔 本来ですと、次回予定日の算出時に使用した増分値を掛け合わせるべきですが、その処理はおこなっていません。 〕

① 9月20日～9月30日 の11日間

$$9.3 \div 30 \times 11 = 3.41 \text{ ‰}$$

(使用量を1日当たりにして、日数を掛ける)

② 10月1日～10月31日 の31日間

$$11.5 \div 30 \times 31 = 11.88 \text{ ‰}$$

③ 11月1日～11月2日 の2日間

$$12.6 \div 30 \times 2 = 0.84 \text{ ‰}$$

$$\begin{aligned} \text{④ } 3.41 + 11.88 + 0.84 &= 16.13 \text{ ‰} \\ 15.75 \div 0.482 &= 33.46 \text{ kg} \end{aligned}$$

(‰ を産気率で割る)

以上により、43日間では、16.13‰ 使用し、kg換算では、33.46になる。100kgからマイナスすれば、

$$100 - 33.46 = 66.54$$

となり、66.54kgが現在庫となる。

・ 例外事項 ・

年間使用量の数値が、平均値の

70%以下のときは、平均値の70%で

1000%以上のときは、平均値の1000%で

それぞれ、下限、上限を決めています。

(d) 印刷例

[HSLLPZAT]		LPG軒下在庫一覧表					範囲		→		14年 9月30日		1 頁
得意先コード 得意先名		設置容量	本数	配送日	経過日数	1日当りkg	消費量kg	(立方)	現在庫kg	次回配送予定			
0000010	○○ ○	40.0	2	14.02.08	51	0.15	7.9 (3.7)	32.1	14.06.02			
0000011	○○ ○○	50.0	1	13.12.11	110	0.29	32.6 (15.3)	17.4	14.05.09			
0000012	○○ ○○	50.0	1	14.03.20	11	0.15	1.7 (0.7)	48.3	14.10.02			
0000013	○○ ○○	20.0	1	13.12.11	110	0.11	12.8 (6.0)	7.2	14.06.04			
0000015	○○ ○○○○	40.0	2	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.06.15	◆		
0000016	○○ ○○	20.0	1	14.03.10	21	0.07	1.5 (0.7)	18.5	14.12.25			
0000063	○○○ ○○	20.0	1	13.11.15	136	0.05	7.9 (3.7)	12.1	14.07.31			
0000080	○○ ○○	20.0	1	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.07.19	◆		
0000081	○○ ○○	20.0	1	14.04.10	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	15.02.01	◆		
0000090	○○○ ○○○○	100.0	2	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.05.24	◆		
0000100	○○ ○○	50.0	1	14.03.10	21	0.32	6.8 (3.1)	43.2	14.07.29			
0000111	○○ ○○	100.0	2	14.03.10	21	0.80	16.8 (7.8)	83.2	14.05.07			
0000120	○○ ○○	50.0	1	13.12.03	118	0.18	21.7 (10.1)	28.3	14.07.10			
0000130	○○○ ○○○○○○○○○○○	10.0	1	13.12.11	110	0.02	2.3 (1.0)	7.7	15.02.19			
0000150	○○ ○○	40.0	2	13.12.11	110	0.15	16.6 (7.8)	23.4	14.05.23			
0000160	○○ ○○	50.0	1	13.12.11	110	0.10	11.9 (5.5)	38.1	15.02.12			
0000190	○○ ○○	50.0	1	13.12.11	110	0.14	15.5 (7.2)	34.5	14.09.22			
0000200	○○○ ○○○○	50.0	1	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.06.20	◆		
0000210	○○○ ○○○○	20.0	1	13.12.11	110	0.04	5.1 (2.3)	14.9	15.02.19			
0000220	○○ ○○	20.0	1	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.08.03	◆		
0000230	○○ ○○	50.0	1	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	15.04.11	◆		
0000240	○○ ○○	50.0	1	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.09.16	◆		
0000250	○○ ○○	50.0	1	13.12.11	110	0.10	11.7 (5.4)	38.3	14.09.29			
0000260	○○ ○○	50.0	1	13.12.11	110	0.22	24.7 (11.6)	25.3	14.06.29			
0000270	○○ ○○○	40.0	2	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.06.02	◆		
0000280	○○ ○○	100.0	2	13.05.22	313	0.19	62.3 (29.2)	37.7	14.04.09			
0000290	○○ ○○	100.0	2	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.11.25	◆		
0000300	○○ ○○	50.0	1	13.10.11	171	0.16	28.9 (13.5)	21.1	14.06.19			
0000310	○○ ○○	50.0	1	13.09.11	201	0.10	21.3 (10.0)	28.7	14.10.30			
0000330	○○ ○○	40.0	2	14.03.06	25	0.09	2.3 (1.0)	37.7	14.09.21			
0000331	○○ ○○	50.0	1	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.09.23	◆		
0000340	○○ ○○	40.0	2	14.01.10	80	0.14	11.3 (5.3)	28.7	14.06.11			
0000341	○○ ○○	20.0	1	14.04.11	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.09.05	◆		
0000350	○○ ○○	100.0	2	13.09.11	201	0.11	23.8 (11.1)	76.2	14.11.09			
0000352	○○ ○○	150.0	3	13.11.13	138	0.49	68.5 (32.1)	81.5	14.04.09			
0000353	○○ ○○	40.0	2	14.04.10	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	14.06.05	◆		
0000360	○○ ○○○	100.0	2	14.03.10	21	0.42	8.9 (4.1)	91.1	14.07.08			
0000370	○○ ○○○	50.0	1	13.12.11	110	0.23	25.5 (11.9)	24.5	14.06.09			
0000381	○○ ○○○	100.0	2	14.02.08	51	0.47	24.0 (11.2)	76.0	14.06.12			
0000390	○○ ○○○	50.0	1	14.04.10	0	0.00	0.0 (0.0)	0.0	15.04.10	◆		

4. 6. 16 配送予測の再計算

通常は、「配送伝票の入力」「配送ハンディ更新」「検針データの入力」で、配送予測計算、及び再計算は自動的に行われますが、強制的に行うこともできます。

(a) 画面

(b) 操作方法

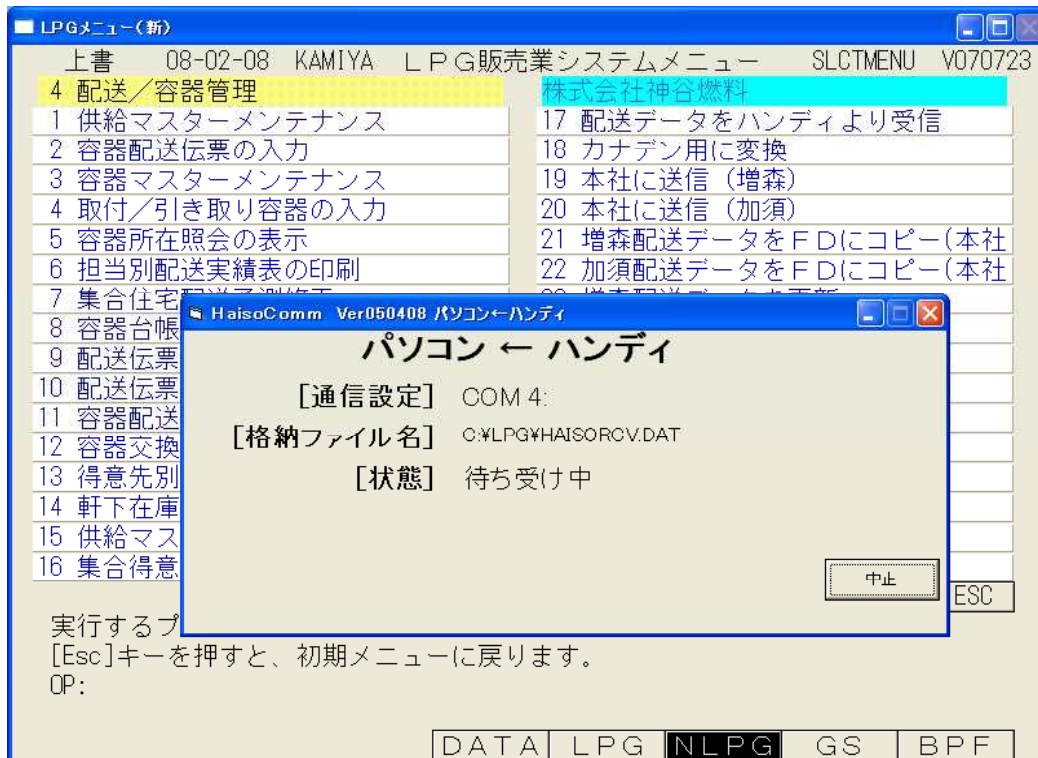
- ① 最初に、「マスタのチェック」を行うかどうか聞かれます。
これは、交換ルール、容器の本数などの矛盾をチェックするものです。
時々実行すると良いでしょう。
 - ・メータ交換フラグのリセット状況を確認して訂正します。
 - ・供給形態のエラーを訂正します。
 - ・設置残量の誤りを訂正します。
 - ・予測量の値を訂正します。
- ② 機能を選択します。
 1. 連続実行 得意先の範囲指定を行って連続的に実行します。
結果は、CSV形式で出力されます。
 2. 単独実行 得意先コードを1件だけ指定します。
画面に結果が表示されます。

4. 6. 17 ハンディ配送伝票の入力

容器配送用のハンディ端末を使用した配送伝票の入力を説明しています。

◎旧バージョンの説明であり、最新のB T-1000を使用したハンディシステムでは、オペレーションがありません。(1)から(4)までは、ハンディ側の操作だけで自動的に実行されます。更に、B T-1000では、次回の配送予定データを、担当者によって自動的に抽出し、ハンディに取込まで行います。

(1) ハンディから配送データを受信



受信するプログラムを起動すると、上記のように通信プログラムがメッセージを表示します。ハンディ側を、「送信」にして、通信して下さい。

使用するハンディの機種とバージョン、及びコンピュータとの接続方法によって表示される画面が多少異なります。

(2) ハンディ配送入力

(a) 画面

(b) 操作手順

① 入力の対象になるファイルが、画面下に表示されます。

このファイル名は、メニューで規定します。通信プログラムがどこに書き込んだかによって変わりますので、変更する場合は、サポート担当に相談して下さい。

② 更新が開始されると、画面に、内容が逐次表示されます。
進行状況を表示しているだけなので、操作は不要です。

③ 実行とともに、結果が印刷されます。
配送伝票を手入力した場合と同様に、「次回配送予定日」「容器の取付/引取」が更新されその結果を印刷します。

④ 印刷内容での注意点

- ・ 指針

1 2 3 4 . 5	のように印字されます。
* 1 2 3 4 . 5	のように「*」が付いているときは、メータ交換して いないのに、指針が逆転していることを示しています。
N 1 2 3 4 . 5	のように「N」が付いているときは、メータ交換後の 最初の入力であることを示しています。

- ・ 予定日

0 7 . 1 2 . 8	のように印字されます。
* * 0 7 . 1 2 . 8	のように印字されたときは、予定日が「限界日」より も後になってしまったことを示しています。

(3) ハンディへの配送データの送信

このシステムで用意している配送ハンディには2種類あります。

- ①得意先情報を何も入れない状態で配送データのみ入力
- ②得意先情報を先に入れておき、配送情報を追加入力

①の場合は、前回情報との照合が行えませんが、②では、得意先名、前回指針が表示されるので現場でチェックを行えます。

(a) 画面

■ ハンディ配送データ出力

上書 08-05-13 KAMIYA ハンディ配送データ出力 HSLHANHS V071221 終了

取出範囲 担当者
 配送センタ
 予定日 0 から 0 まで
 得意先コード から まで
 (以上のすべての条件を満たすデータを出力する。)

印刷順 1. 得意先コード順 5. 担当別得意先コード順
 2. 予定日順 6. 担当別予定日順
 3. 検針順 7. 担当別検針順
 4. 地区コード順 8. 担当別地区コード順

明細の印字 0 0. 印字なし 1. 印字あり

件数

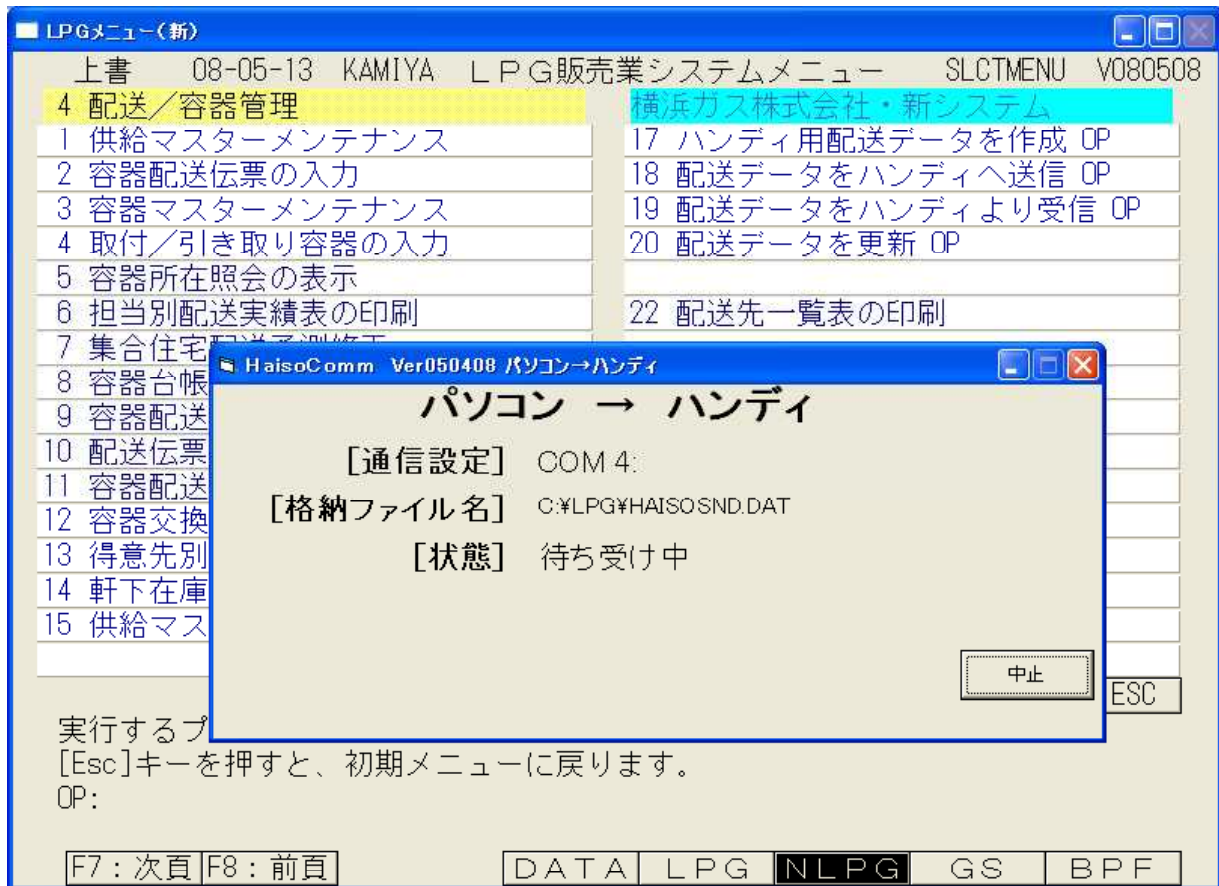
送信ファイル C:¥LPG¥HAI¥SOSND.DAT (起動コマンドで変更可)

(b) 操作手順

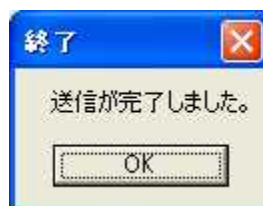
- ①担当者は、ハンディごとにデータを分ける必要がありますので、必ず指定します。
- ②配送センタは、配送基地が複数あるときに、使用します。
- ③予定日は、[開始日] から [終了日] として指定します。通常、開始日は指定する必要はありません。終了日は、[配送伝票] の印刷範囲に合わせて指定して下さい。
- ④得意先コードで、さらに範囲を指定することができます。
- ⑤印刷順は、一覧表を作る際の並び順を指定します。[配送伝票] を別途出力していれば、明細は不要です。
- ⑥明細の印字の有無は、任意に指定して下さい。

- ⑦件数が表示されるので、よろしければ、続行して下さい。
通常、ハンディには、500件以内の登録で運用して下さい。

(C) ハンディへの送信



- ①ハンディを「受信」状態にして、通信ボックスに載せます。
- ②「配送データをハンディへ送信」を実行して下さい。
- ③完了すると、次のように表示されます。[OK]して下さい。



4. 6. 18 ハンディ入力結果の再印刷

配送ハンディで入力した結果だけ再印刷することができます。
印刷を失敗したときに使用して下さい。

(a) 画面



(b) 操作手順

- ① 「YES」とすると実行されます。

4. 6. 21 配送先一覧表の印刷

配送対象の得意先一覧を印刷します。

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 範囲の指定を行います。
1～8を選んで、該当する値を指定して下さい。省略すると、全部を指定したことになります。
- ② 分類方法
印刷順を指定します。
- ③ 取出条件
0. 全部
1. 戸建てのみ
2. 集合の親のみ
- ④ 供給形態
供給マスタメンテナンスの、「供給形態」に合わせて下さい。

4. 6. 22 設置容器集計表

得意先に設置されているボンベが何本あるのかを集計して印刷します。

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 取り出し区分を指定します。
 - ・ 営業コード：得意先コードの先頭2文字ごとに集計します。
 - ・ 任意区分：得意先マスタの、任意区分ごとに集計します。
 - ・ 配送担当者：得意先マスタの、配送担当ごとに集計します。実際に配送した担当者ではありません。
 - ・ 検針担当者：得意先マスタの、検針担当ごとに集計します。
 - ・ 地区コード：得意先マスタの、地区ごとに集計します。

(c) 印刷例

[HSLSETYK]		設置容器集計表		区分 = 地区コード			14年 9月30日	1 頁
区分	名称	得意先数	5 0 kg	3 0 kg	2 0 kg	1 0 kg	バルク	計
		771	786		446	8		1,240
	合 計	771	786		446	8		1,240

4. 6. 24 配送予測リカバリー

配送伝票入力後に、伝票の取消をすることができます。通常、入力すると、次回の配送予定日が計算され、過去の履歴も1つ移動します。このプログラムは、それらを、入力前の状態に戻す処理を行います。

内部処理の関係で、戻せるのは、1回だけです。

(a) 画面

上書 20-11-11 配送予測リカバリー HSHAIRCV V191121 終了

担当 07 ○○○○
 得意先 0000111 電話 1234-55-5303 担当 09 ○○ ○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

今回配送日 201027 伝票入力日 1027
 前回配送日 201006

今回配送伝票を入力する前、あるいは予測の修正が行われる前の配送予測データ

予測配送日	配送予定日	修正実行日	交換時指針	使用量	予測量	予測指針	限界日	限界指針
201020	201020	201006	00146.1	00017.8	000.0	00152.6	201020	00183.5
設置容器								

現在の状況 (復旧すると、上のデータで更新されます)

予測配送日	配送予定日	修正実行日	配送時指針	使用量	予測量	予測指針	限界日	限界指針
201110	201110	201027	00152.8	00014.2	000.0	00159.3	201110	00147.8
設置容器	B013	B062						

上段のデータで、予測状況を上書きします。通常、配送伝票入力前の状態になります。

Fn 訂正 コード 順 検索 YES (F9) NO (F11)

(b) 操作手順

- ① 「確認」をYesにするだけです。
実行したくないときは、「終了」して下さい。
- ② 実行すると、下の段にある、最新情報が消えて、上の段にある、1回前の状態が最新になります。

4. 6. 25 配送伝票の印刷取り消し

印刷処理を行ってしまった配送伝票を、印刷する前の状態に戻します。間違っ
て範囲指定を行って、
いない伝票を発行したときなどに、それを取り消すのに使用します。

(a) 画面

(b) 操作手順

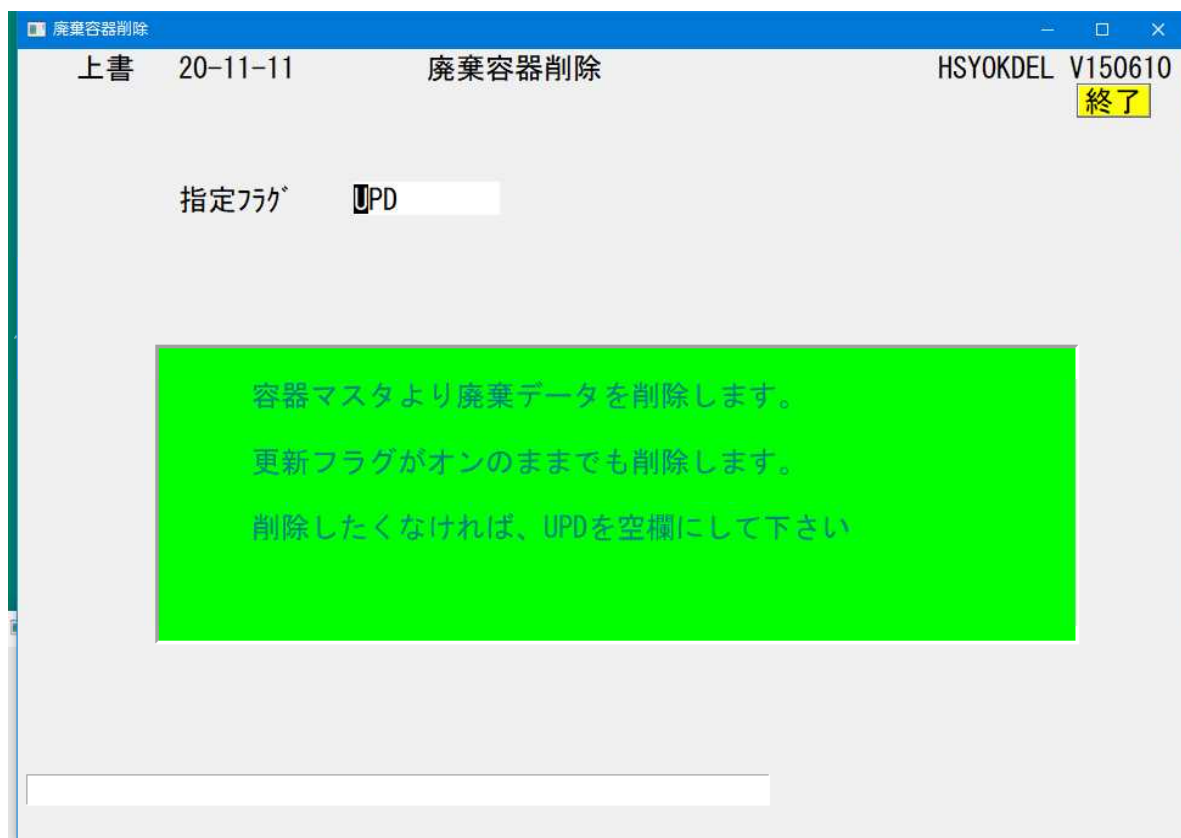
- ① 発行日付を指定します。
当日発行した伝票を取り消すならば、当日の日付（月日）を入力します。伝票の予定日
ではありません。

<>取り消しをして再度発行したい伝票が、少数ならば、「配送伝票の印刷」で、「伝票の重複発行
あり」にしても良いです。

4. 6. 27 廃棄容器の削除

「容器マスタメンテナンス」で削除処理を行った容器に対して、実際にデータベースから消去します。この処理を行わないと、見かけ上削除されている容器でも、データベース上には存在するために、同じ番号の容器を再度登録することができません。

(a) 画面



(b) 操作手順

- ① このまま、「確認」に対して「YES」とすると、削除状態の容器が本当に消去されます。

画面上のメッセージとして、

更新フラグがオンの容器は削除しません

容器台帳FD出力を実行した後に削除できます。

と表示されたときは、他システム（充填管理）と連携している場合ですから、交換用のFD作成を先に実行しなければなりません。

- ② 画面上に、総容器数と、削除した数が表示されます。

4. 6. 29 供給マスターエラーチェック

供給マスターの設定ミスを探してチェックリストを作成します。

(a) 画面

(b) 操作手順

- ① 得意先の範囲指定を行います。
- ② 担当者を指定すると、その配送担当者のマスターだけを対象にします。
- ③ 集合指定
 1. 全部
 1. 戸建てのみ
 2. 集合の親のみ
- ④ チェックオプション
 - ・係数チェック1. . . 平均使用量に対しての差異
 - ・係数チェック2. . . 月の前後との比率
 - ・容器種類×本数と、予測量が一致しないもの
 - ・容器本数と、取付されている容器の本数が異なるもの
- ⑤ 状態コードでの除外
対象にしなくてよい、得意先の「状態コード」を指定します。

4. 6. 30 配送予測状況チェック表示

供給マスターの設定ミスを探してチェックリストを作成します。

(a) 画面

上書 20-11-10 谷口 配送予測状況チェック表示 HSYSKCHK V150610 TN 終了

得意先 0000460 F2で順次進む 戸建て 電話 1234-55-2731 担当 08

供給形態 設置 3 1. シングル 2. 手動 3. 自動 4. バルク 交換方法 1 1. 交互 2. 全量 3. 一次
 予測方法 1 1. 実績 2. サイクル 日ごと 3. 毎月の固定日

明細の印刷 50 30 20 10

日付	指針	使用量kg	日数	1日(m3)	残量kg
前回配送日	200312	15.9	45.3	680	0.03
今回配送日	200326	16.4	1.0	14	0.03
前回検針日	200908	18.2	.2	32	0.00
今回検針日	201007	18.7	1.0	29	0.01
配送バス日		.0	.0	0	0.00
予測配送日	210326	25.8	20.0	365	0.02
配送予定日	211007	25.8	20.0	560	0.02
限界日	211007	35.2	40.0	560	
M交換日		旧 .0	新 .0		

前回サイクルの、1.5倍以上
 前回サイクルの、0.5倍以下
 その他不良箇所あり

前回サイクルの、1.5倍以上

伝票発行 0 0. 未発行 1. 発行済み 発行日 0000 発行時予定 0

使用量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2018	1.9	.8	.7	.5	.7	.5	.8	.9	.6	.1	2.4	2.0
2019	3.1	1.3	.5	.9	4.0	.4	.2	.2	.0	.4	.7	.4
2020	.5	.5	.5	.8	.3	.8	.2	.1	.1	.5	.0	.0
係数	.5	.5	.5	.8	.3	.8	.2	.1	.1	.5	.7	.4
予測時	.6	.6	.6	.8	.3	.8	.2	.1	.1	.6	.8	.5

(b) 操作手順

① 次の項目に、チェックを入れて、「F2」を押します。

- ・ 前回サイクルの、1.5倍以上
- ・ 前回サイクルの、0.5倍以下
- ・ その他不良箇所あり

② 該当する得意先が見つければそれを表示して止まります。

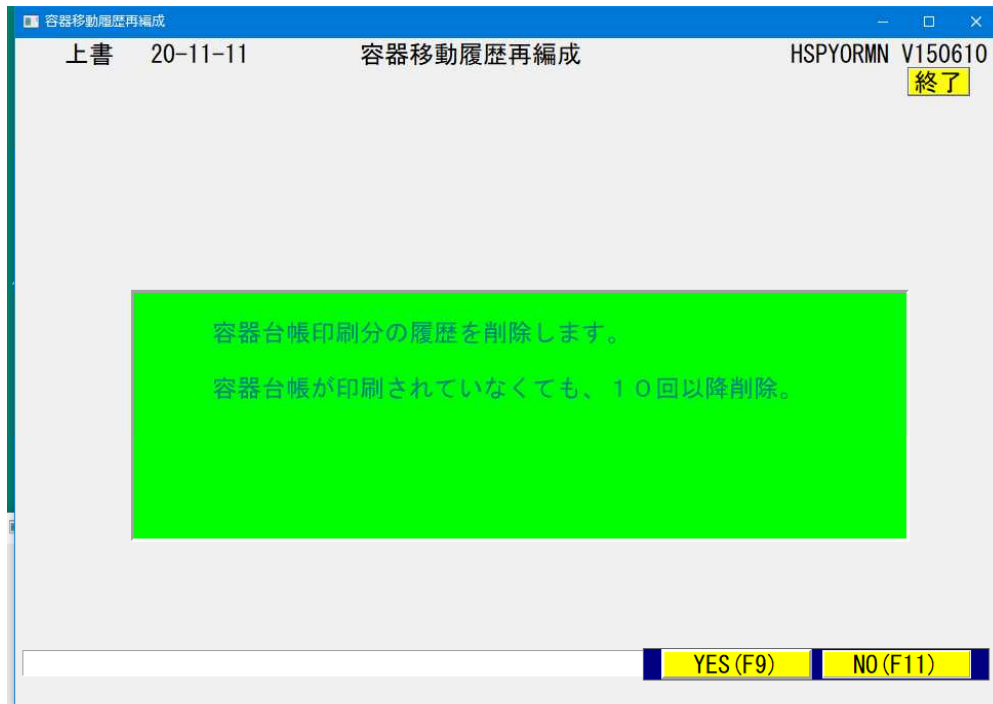
前回サイクルの、1.5倍以上

と表示されたものが、条件に合致した内容です。

4. 6. 31 容器移動履歴の再編成

得意先に容器を取付／引き取りすると、その移動状況を管理するファイルに書き込まれます。書き込まれたものは、どんどんたまるので、時々不要の明細を削除してやらねばなりません。このプログラムを、月に1回程度実行して下さい。容器台帳に印刷済みの明細と、10回以上前の交換履歴が削除されます。

(a) 画面



(b) 操作手順

- ① 「確認」をYesにするだけです。
実行したくないときは、「終了」して下さい。

貯まっている明細によりませんが、数十分の時間を見てください。